

12月13日

殉教者おとめルシヤ

Luzia / Lucy

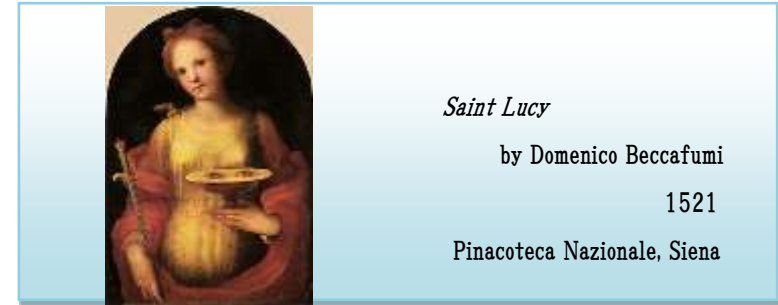
(?～304年頃)

～シシリアの殉教者～

ルシヤの生涯の正確な資料は何一つ残っておらず、様々な伝説があるだけです。それによれば、彼女はシシリアの裕福な家庭に生まれたそうです。彼女には病気の母がいたのですが、一緒に殉教者の墓を巡礼し、祈ると母の病気がいやされました。そしてルシヤは、その感謝をあらわすために、身も心も一生神にささげる決意をし、財産を貧しい人々に配っていったと言われます。

ルシヤはその頃、ガイオという高貴な家柄の男性から求婚をされていたのですが、彼女はそれを拒否します。それは熱心な信仰からとも、財産を貧しい人に配ったからだともいいます。そして、断られたガイオは彼女を当局に密告し、キリスト教徒を迫害していたディオクレティアヌス帝の命令によって、首に剣を刺し貫かれて殉教します。

ルシヤは絵画の中で、本や皿、貝殻を持って描かれる場合が多く、それらの上には二つの目玉も置かれることがあります。また、目玉の付いた頭蓋骨を手に行っている姿もあります。一説には、先ほどのルシヤに求婚したガイオが、ルシヤの美しい目が忘れられず、昼も夜も自分を苦しめると言ったので、ルシヤは自分の目をえぐり出し、彼の元へと目玉を送ったそうです。その後、神は彼女にそれま



Saint Lucy

by Domenico Beccafumi

1521

Pinacoteca Nazionale, Siena

で以上に美しい目を与えました。

また、ルシヤの名前は「光」を意味するので、ランプを持っていることも多くあります。

ルシヤを覚える記念日は12月の初旬になっていますが、この時期、日照時間が非常に少なくなるスウェーデンなどのスカンディナヴィアの国々では、このルシヤの日を、非常に豊かな光を用いてお祝いします。おとめの祝祭として、一家の子どもたちのうちで一番年上の娘がルシヤに扮して白いドレスに身を包み、火をともしたらうそくの冠をかぶって、教会へ行進します。そしてこのときに歌われるのが、有名なナポリ民謡である「サントルチア（聖ルシヤ）なのです。

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者おとめルシヤに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。
アーメン